

## は し が き

本書は平成7年度に実施された「APEC諸国・地域における商品貿易統計の整合性に関する考察」研究会の成果の一部である。

中国が1978年末に对外开放に踏み切り、輸出振興と外資導入の奨励を開始したのを受けて、中国の貿易は年を追って拡大した。これに関連して、香港は1988年を境に再輸出が地場輸出を上回るに至り、中国と世界を結ぶ中継貿易基地として大きな役割を果たすことになり、再輸出額の総輸出に占める比率は増大の一途をたどった。さらに香港は政治的に正式交流のない中国と台湾の間の商品の往来を、宛先を香港とすることによって実際面で支える役割も担っている。そこで本書では香港、台湾、中国の貿易について香港の貿易構造、台湾から見た台湾と中国の貿易の実態および貿易が台湾経済に及ぼす影響、中国の貿易構造と貿易統計作成面の特徴、を掲載する。

また、貿易統計において輸出国側数字と対応する輸入国側数字の整合関係を乱す一番大きな要因として第三国経由の貨物の統計上の扱いがあげられることから、中継貿易地香港の再輸出貿易統計を用いて貿易額の大きな40の商品グループについて原産国から最終仕向け国への輸出のマトリクス表を作成し、掲載する。この再輸出貿易統計は出版物の形では公表されておらず、香港センサス統計局から提供を受けた磁気媒体のデータを加工編纂したもので、出版物では香港から輸出された形をとっている商品の原産国が判明することから貴重な情報を提供するものとする。

なお、研究会には主査山本泰子（アジア経済研究所統計調査部主幹）、幹事野田容助（同統計調査部電子検索課課長代理）、共同研究者には小島末夫（日本貿易振興会海外調査部中国・北アジアチーム

チームリーダー）、石原享一（神戸大学国際文化学部教授）、沢田ゆかり（神奈川大学外国語学部専任講師）、オブザーバに佐藤幸人（アジア経済研究所地域研究部）の各氏が参加した。また、林昱君氏（台湾・中華経済研究院副研究員）には現地研究の形で協力をいただいた。

最後に、香港の貿易統計を快く提供して下さった香港センサス統計局に対し、改めて厚く御礼申し上げる次第である。

1997年3月

アジア経済研究所統計調査部長  
佐野敬夫  
同 主幹  
山本泰子  
同 電子検索課課長代理  
野田容助